環境影響評価準備書に対する市長意見(審査書)及び事業者の見解

項目	市長意見	事業者の見解
騒音・振動	<p>工事中の騒音防止対策として、工事構内における工事車両の低速運転、急発進の禁止等の措置を行うとともに、高層建築物の建設、敷地境界の近接工事を行う際などには、住民への周知等に配慮することが必要です。</p>	<p>工事に際しては、作業時間、作業区域、使用機械の配置等を十分に考慮した作業工程の作成、技術進歩に伴う低騒音工法、低騒音機械の積極的導入、工事構内における工事車両の低速運転・急発進禁止等の措置を取るとともに必要に応じて仮囲いの高さを高くする等の対策を講じます。</p> <p>また、各事業予定区域の工事実施時期には工事に関する説明等を実施し、周知に努めます。</p>
	<p>道路の整備にあたっては、騒音防止の観点から路面舗装の平坦性に配慮することが望まれます。</p>	<p>道路の整備は別事業であります。騒音防止のための路面舗装の平坦性の配慮は必要と考えており、関係機関へ働きかけてまいります。</p>
	<p>今回の騒音予測手法であるモンテカルロ法について、その予測手順など適切でわかりやすい説明を加えるなどの配慮が必要です。</p>	<p>モンテカルロ法の予測手順について、適切でわかりやすい表現にします。なお、見解書で述べました「供用時の騒音レベルそのものを対象にしているのではなく」とは、この手法が、現況調査に基づく騒音波形モデルによるシミュレーションにより現況及び供用時の騒音レベルを予測し、その比較により影響を予測・評価するものであることを述べたものです。</p>
	<p>工事中の騒音、振動における環境保全目標のなかで、特定建設作業以外の作業を含めた意味で「一応の目途」という表現がされていますが、この表現は適切でないので検討が必要です。</p>	<p>特定建設作業については規制基準を遵守し、それ以外の作業についても規制基準を一応の目途とします。</p>
地盤	<p>斜面の崩壊に対する保全対策については妥当なものと判断されますが、地区内造成の安全性を説明するため、切盛土の最大値等を記載すべきです。</p>	<p>切土の最大は楠荘敷地東部分の一部で6.6m、盛土の最大ははざま荘敷地東南部分の一部で5.0mです。そのことを記述します。</p>
植物及び緑地	<p>自然を集団として残すという観点から、現存する樹種を活かしつつ、将来的にも保全できるような植栽計画等に配慮するとともに、景観はもちろん地区内における風害・防災等にも考慮した緑化に努めることが必要です。</p>	<p>事業予定区域内の大規模な斜面緑地は原則的に保存するとともに、造成後に回復成する緑については、現存する樹種を活かしつつ将来的にも保全できるような植栽計画となるよう配慮します。また、景観、防風、防災等も考慮した植栽を実施します。</p>
動物	<p>昆虫類の同定に正確さを欠くと思われる部分があり、調査結果についてより詳細な整理をすべきです。 昆虫をはじめ動物について貴重種の繁殖が認められる場合には、事業実施にあたって、可能な限り当該地区の環境保全に努めることが必要です。</p>	<p>昆虫類について既存資料調査及び現地調査の結果について再整理を行い本文を修正するとともに、資料編に目録を掲載します。 鳥類及び昆虫類については、保護または保存対策を必要とする種の生息が確認されましたので、再緑化に際しては現況緑地を生かしつつ多様な樹木を適切に織り交ぜ、実のなる木を積極的に植栽するなど、良好な生息環境の保全に努めます。 また、工事に際しては濁水の発生防止に努め、ため池の水質に著しい影響を及ぼさないようにするとともにため池への濁水の流入については水質監視を行います。</p>
日照	<p>保育園、高齢者福祉施設などのとくに日照等への配慮が必要な施設に対する環境保全対策については、実施計画にあたって、よりきめ細やかな配慮が望まれます。</p>	<p>保育園、幼稚園、小学校、中学校及び高齢者福祉施設の敷地へ日影を生じさせる建物の建築にあたっては、日影の影響について特に配慮し、各施設の設置者と協議します。</p>
電波	<p>本事業は、長期にわたる建替え事業であることから、将来の科学の進歩も配慮し、CATVの利用、ハイビジョン放送等に対応できる建物の付帯施設</p>	<p>今後、都市型CATVの導入等についても検討してまいります。 また、電波の反射障害対策としての構造、反射防</p>

	等を検討していくとともに、電波の反射障害に対しても、建築物の構造の検討はもちろん、反射防止のための適切な材料の選択についても研究課題としていくことが必要です。	止のための適切な材料の選択についても調査研究を行ってまいります。
廃棄物	団地から発生する廃棄物について、ごみ置場等のスペース、配置、周辺への影響等に対する配慮が必要です。	ごみ置場等については、関係機関と協議し、スペース・配置及び周辺への影響にも配慮してまいります。
景 観	<p>当地区は、良好な既成市街地や池、公園等の自然を含む起伏に富んだ地形を持つ地域であることから、色彩等の景観計画を定めるにあたっては、周辺環境に与える影響を十分配慮したゾーン別計画等を考慮すべきです。</p> <p>また、電線等の地中化に伴い歩道上の変圧器をベンチ型にするなどきめ細やかな景観上の配慮が望まれます。</p>	<p>事業予定区域は起伏に富んだ地形の既成市街地に混在しており、住棟階数別計画においてもその点については配慮しております。</p> <p>色彩・外観等の景観対策についても、周囲の既成市街地の状況、公園・池等自然との関わり等を配慮したゾーンを設定し、住棟等のデザイン・色調等が周辺環境に与える影響に十分配慮してまいります。</p> <p>また、道路整備に伴うきめ細やかな景観上の配慮につきましても関係機関に働きかけてまいります。</p>
安全性	高齢者等への対応として、歩きやすさにも配慮した横断施設及び歩道の連続性についての検討が必要です。	事業予定区域内につきましては、高齢化に対応できる団地作りを目指しており、歩きやすさに配慮した設計に努めます。また、歩きやすさに配慮した横断施設および歩道の連続性についても関係機関に働きかけてまいります。
	住宅の建設に伴う交通量の増加に対して、交差点における右折車線の設置等の改良策を検討すべきです。	住宅の建設に伴う交通量の増加対策として、交差点における右折車線の設置等の改良策を関係機関に働きかけてまいります。
文化財	この地域は古窯などの文化財が存在する可能性が高く、存在が確認されたならば適切な措置を講ずる旨を記載すべきです。	古窯等の文化財の存在が確認された場合には、関係機関と協議し適切な措置を講じます。
その他	<p>今回の事業は15年間にわたる長期の事業であることなどから、センター施設等の計画が成熟していない状況にあり将来これらの計画が具体化する際には、関係機関と適宜協議し、周辺環境への影響について配慮されることが望まれます。</p> <p>また、高齢者などに対する配慮として種々の対応が考えられていますが、事業の実施にあたり、これらの説明を行うなど、事業に対する不安感の解消にできる限り努められることが望まれます。</p>	<p>各施設に関して、その内容が具体化し、事業レベルに至った時点では、名古屋市環境影響評価指導要綱に照らし必要な措置を実施してまいります。</p> <p>また、高齢化対応の設備の充実に努めるとともに、各団地ごとの事業実施にあたっては、説明会等を実施し建替事業の実施にともなう不安感の解消に努めてまいります。</p>